

編集 後記

昨年に引き続き今年もコロナ禍での新年を迎えることとなりました。新型コロナウイルス感染症の世界的流行が長期化する中、医療機関や行政をはじめとして、感染症対策に第一線で奮闘されておられる皆さまに心から感謝と敬意を表します。

第69巻1号では原著4編、資料2編が掲載されています。特に高齢者を対象とした研究が4編あり、西田らの論文では介護予防活動への参加要因、野藤らの論文では要介護発生リスク予測モデルおよびリスクチャートの試作、杉浦らの論文では高齢者の現在の就労状況や就労理由の検討、平島らの論文では高齢ドライバーの運転免許証自主返納後の活動性変化や機能の変化についての検討が議論されています。超高齢社会に突入し、今後も高齢者率が高くなると予測されている日本において、これらの研究課題はますます重要性を増していくものと考えられます。

また赤岩らの論文ではコロナ禍における世帯収入の変化と食物へのアクセスの検討が行われ、上野らの論文では2021年に必須事業となった被保護者健康管理支援事業を実施する福祉事務所が抱える期待や課題等について議論されています。新型コロナウイルス感染症の流行拡大は、直接的な感染に伴う健康問題はもちろん、我々の生活や社会生活の多方面に大きな影響を及ぼすものであり、今後、公衆衛生における様々な場面で新たな課題が出てくるものと思われれます。

昨年末には日本での新規感染者数がかかり減少してきたものの、新たな変異株の出現などもあり、残念ながらいまだ感染の終息が見通せず、長期化の様相を呈しています。一方で地域活動や研究教育活動などにおいても、一定の感染防止対策をとりながら対面での活動が再開してきています。新たな生活様式に向けた取組とともに、世界中において公衆衛生学が果たす役割はますます重要であると感じています。

(高橋邦彦)

次号予告 (第69巻・第2号)

原著

対策型乳がん検診におけるマンモグラフィ非検出乳癌の実態と関連要因の検討……杉本昌子, 他
 ヤングケアラーの精神的苦痛：埼玉県立高校の生徒を対象とした質問紙調査……宮川雅充, 他
 「通いの場」への参加は要支援・要介護リスクの悪化を抑制するか：JAGES2013-2016 縦断研究……田近敦子, 他
 市民の HIV 陽性者へのパブリックスティグマとキャンペーン標語「U=U (ウイルス量検出限界値未満なら感染しない)」の知識……戸ヶ里泰典, 他

資料

原子力災害下における福島県住民の心的外傷後成長の実態：自由記述の検討……岩佐 一, 他